

序

この報告書は、（公財）中部産業・労働政策研究会が第8期（2018年9月～2019年8月）に行なった年度調査研究「50歳代のスタッフがイキイキと活躍できる働き方」についてまとめたものです。

各企業において従業員の高齢化は急速に進み、バブル期（89～92年）入社世代がまさに50歳代に突入しており、配置や業務付与はもとより意欲や活力を高めるような環境整備が、喫緊の課題になってきています。そして、この年齢層の一人ひとりが当事者意識をしっかりと持って、自分の期待値を理解して業務に取り組み生産性を向上させていくことが求められています。

そこで、本調査研究では、特に50歳代のスタッフ（マネジャー職ではない方）に焦点をあて、豊富な経験を活かしてスキルと報酬に見合った力を発揮し、組織の一員として今まで以上にイキイキと働いて成果を出していくために取り組む課題を考察しました。本報告書は、50歳代だけでなく40歳代以下へのアンケート調査も含めて分析しており、各企業の労使の方々にとって、すべての世代の働き方の議論や対策検討の際の一助になれば幸いです。

報告書の作成にあたっては、研究主査を務めていただいた同志社大学の藤本哲史教授、関西外国語大学の古田克利准教授に多大なるご尽力をいただきました。また、調査にあたっては、中部地区の賛助会員企業労使からなる「専門委員会」での活発な議論や貴重な助言をはじめ、アンケートの回答に際しても多数の方々にご協力をいただきました。この場をお借りして皆さまに心から御礼申し上げます。

2020年3月

公益財団法人 中部産業・労働政策研究会
理事長 鶴岡 光行